

敷地をトレーシングモードで入力する方法

文書管理番号：1214-02

Q. 質問

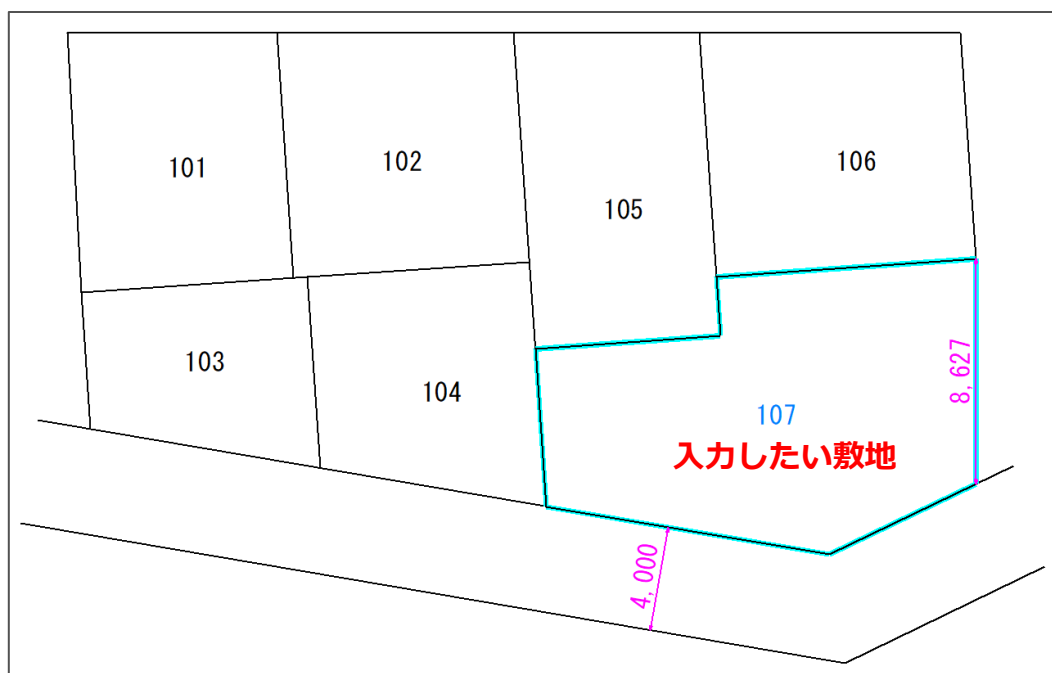
公図（字図）を利用して敷地を入力したい。

スキャナーなどでパソコンに取り込んだ画像データを利用して、敷地を入力したい。

A. 回答

敷地入力に必要な寸法や座標の情報がなく、三斜法や座標入力で敷地が入力できない場合や、DXF形式の敷地データがない場合に、PDFファイルや画像ファイルなどのデータをパソコン画面に表示させ、外構図のトレーシングモードを利用して写し絵のように敷地を入力することができます。

ここでは、次のような公図の情報をもとに、トレーシングモードを使用して敷地を入力する方法を説明します。



【注意】

トレーシングモードで敷地を入力する場合、下図の線にはスナップできずフリーハンドでの入力になるため、正確な寸法、角度の入力はできません。

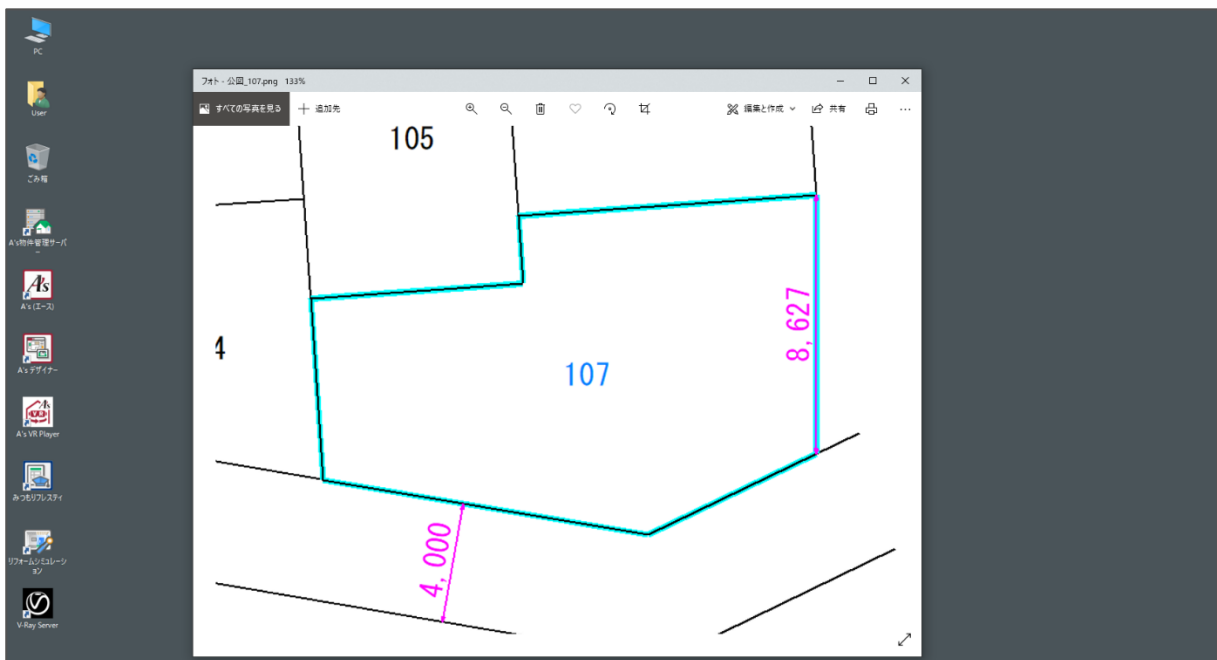
おおよその形状、大きさに作成することになります。

操作手順

入力したい敷地のデータ（画像や PDF 形式などのファイル）をあらかじめご用意いただき、パソコン内に保存しておいてください。紙媒体のものは、スキャナーなどでパソコン内に取り込んでください。パソコン画面に表示できれば、保存するファイル形式はどのようなものでもかまいません。

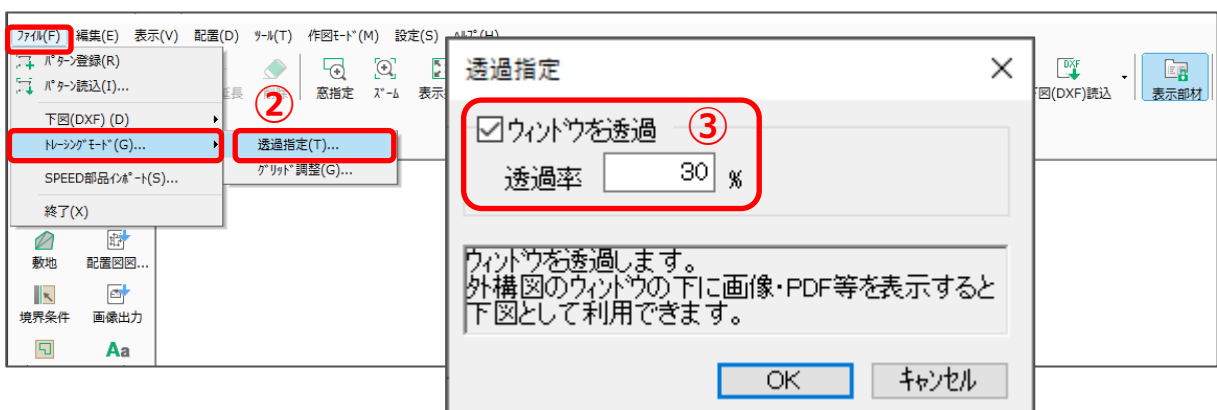
① パソコン画面の上にトレースしたい敷地の画像データを開く

- * 目的の敷地をなるべく大きく拡大表示し、画面内におさまるように調整してください。



② (外構図)を開き、「ファイル」⇒「トレーシングモード」⇒「透過指定」をクリック

- * 透過指定の画面が表示されます。

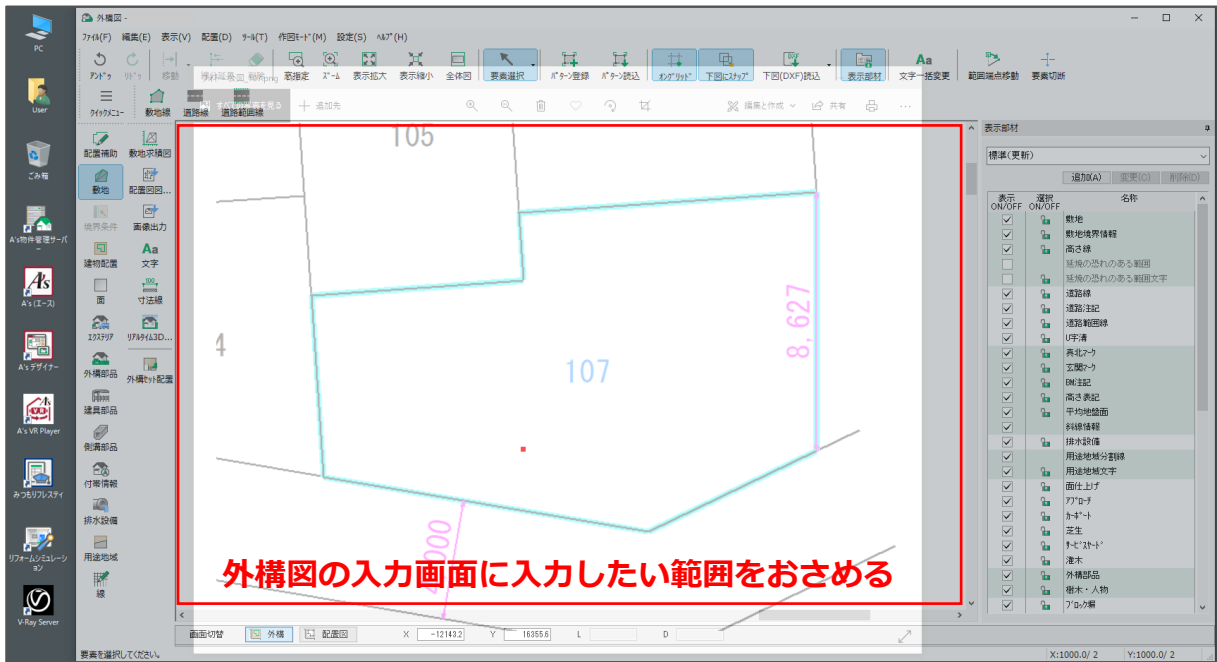


③ 「ウィンドウを透過」にチェックを付け、透過率を設定

- * 透過率が大きいほど、外構図の画面表示が薄くなります。
- * ここでは、透過率を「30」%とします。

④ 外構図とトレースしたい敷地データの位置を調整

* 外構図の入力画面にトレースする敷地がおさまるようにします。



【注意】

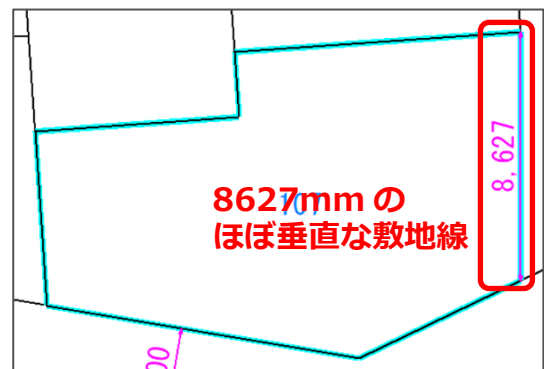
これ以降の操作では、マウススクロールなどでの外構図画面の拡大/縮小は行わないでください。画面の拡大/縮小を行うと、縮尺があわなくなります。

⑤ 「ファイル」⇒「トレーシングモード」⇒「グリッド調整」をクリック

* グリッド調整の画面が表示されます。

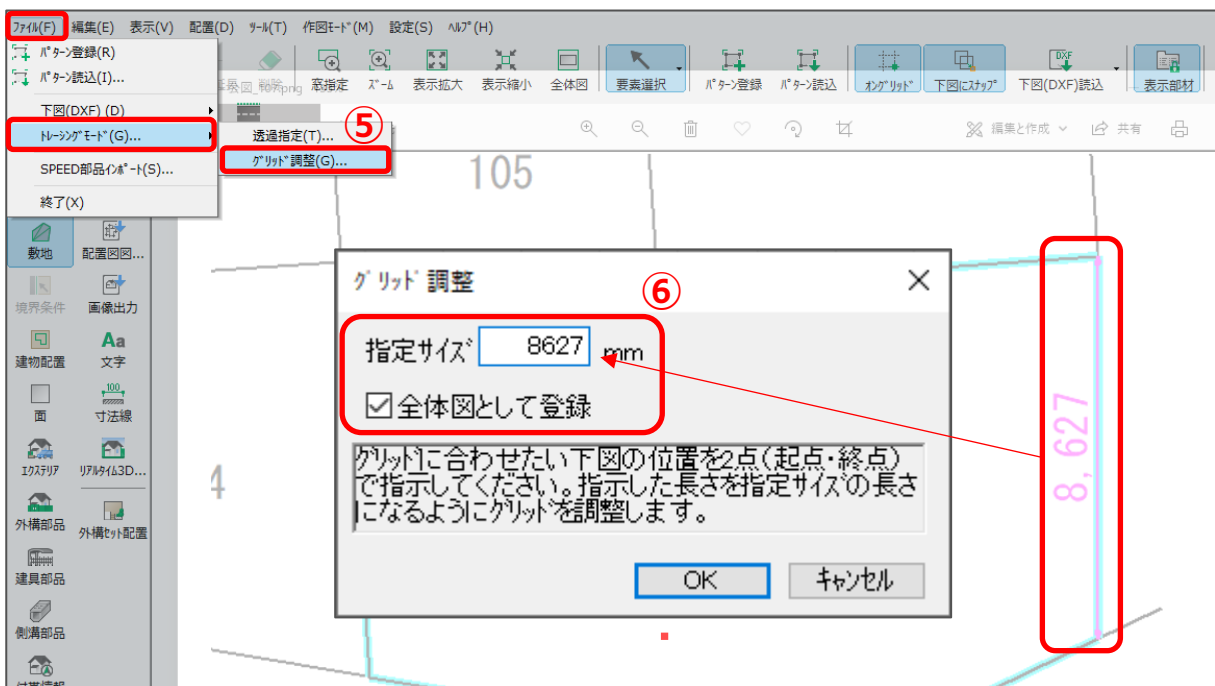
【参考】


グリッド調整では、なぞった線の長さが指定した長さになるように、画面表示の拡大率が調整されます。その際、実長の指定は垂直・水平方向で行うため、公図の敷地線で、垂直または水平に近い線を利用するか、実長の線を書いて利用してください。ここでは、敷地の右側にある「8627mm」のほぼ垂直な敷地線を利用して、グリッド調整を行います。





⑥ 指定サイズに基準とする敷地線の長さを入力

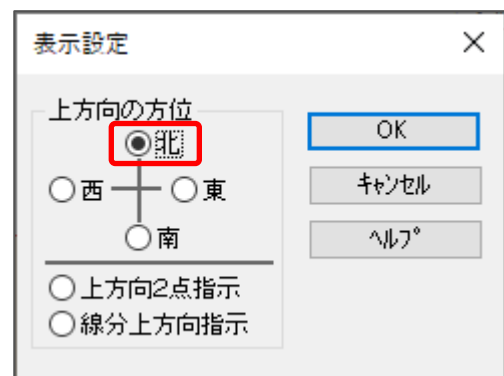
* ここでは、「8627mm」と入力します。



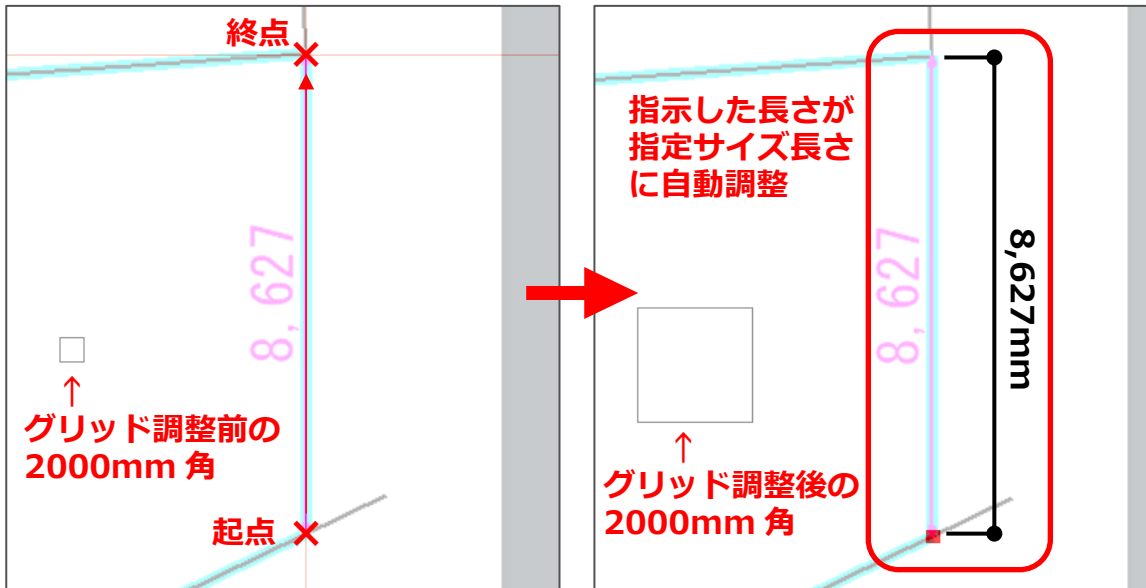
* 「全体図として登録」にチェックを入れると、グリッド調整した画面と拡大率を全体図として登録します。グリッド調整後に画面表示を動かしてしまった場合、 (全体図)をクリックすると画面表示位置、拡大率が戻ります。

【注意】

 (建物配置)の  (表示設定)で画面の表示を回転させている状態でグリッド調整を行うと、指定サイズの長さに調整できません。
初期画面の表示状態でグリッド調整を行ってください。
真北マークが配置されていない状態で、表示設定の「上方向の方位」を「北」に設定すると、初期画面の表示状態になります。



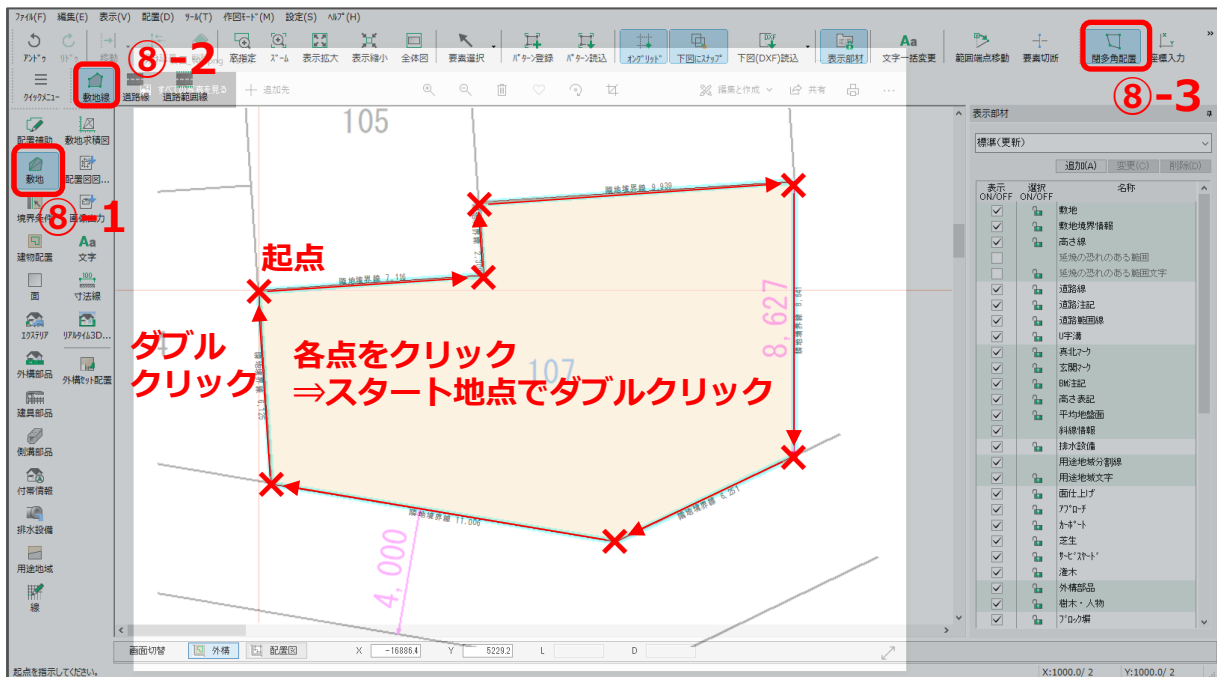
⑦ 基準とする敷地線を、起点—終点でなぞるようにクリック



* 拡大率が自動計算され、外構図のグリッドが調整されます。

⑧ (敷地)の (敷地線)をクリックし、 (閉多角配置)で敷地のコーナーを順にクリック

* スタート地点に戻り、ダブルクリックすると敷地の入力が完了します。

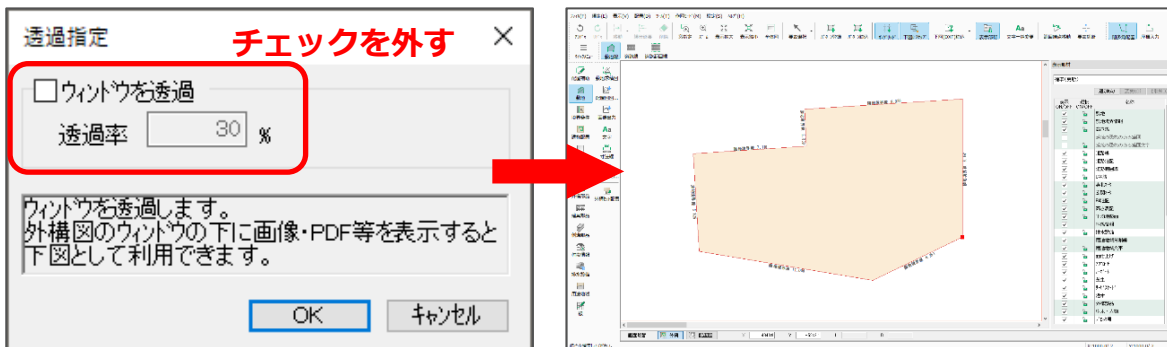


⑨ 「ファイル」⇒「トレーシングモード」⇒「透過指定」をクリック

* 透過指定の画面が表示されます。

⑩ 「ウィンドウを透過」のチェックを外し、「OK」をクリック

* 外構図がトレーシングモードから通常モードになります。



【参考】

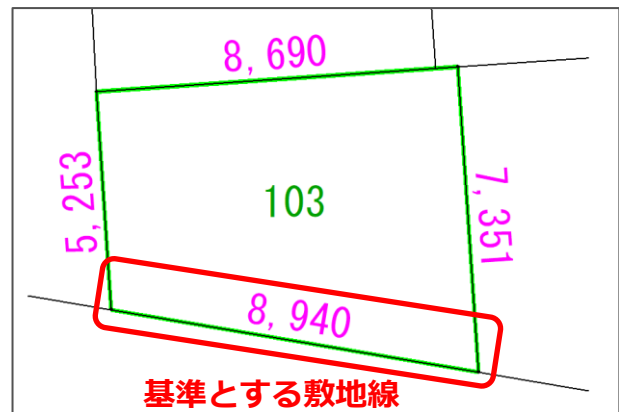
「トレーシングモード」については、A's (エース) のマニュアル「基本詳細編」 または ヘルプもご覧ください。

参考：公図の中に垂直・水平な線がない場合

公図の中に、長さの分かる垂直または水平な線がない場合は、補助線を利用して垂直・水平な線を配置します。

右のような公図を例に、トレーシングモードのグリッド調整を行う方法を説明します。

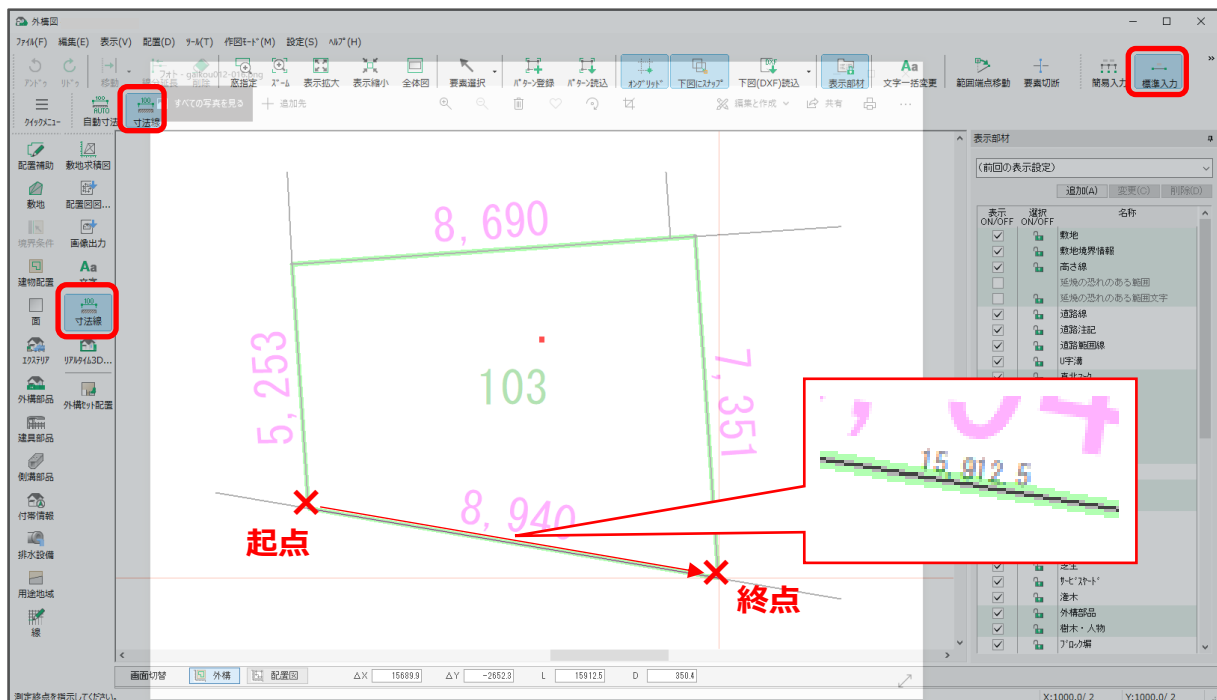
ここでは、基準とする敷地線の長さを「8940mm」とします。



① P.2～3 操作①～④の手順で、外構図の入力画面にトレースする敷地を表示

② 基準とする敷地線の長さを測定

- * (寸法線)の (標準入力)で、起点—終点をクリックし、実長を測定します。
- * ここでは、本来「8940mm」となる敷地線の実長が「15912.5mm」と寸法線が表示され、縮尺があっていないことが確認できます。

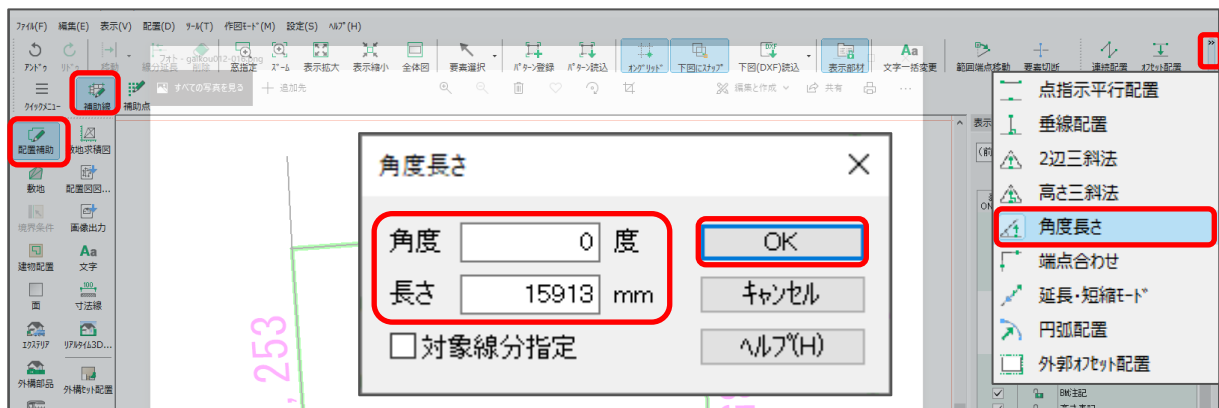


- * 寸法文字が小さく確認しづらい場合は、 (ズーム)を利用して確認できます。
 (ズーム)をクリックし、大きく表示させたい範囲に合わせてクリックすると、指定した範囲が拡大表示されます。確認後、最初の画面表示サイズに戻すには、必ず再度 (ズーム)をクリックしてください。

【注意】

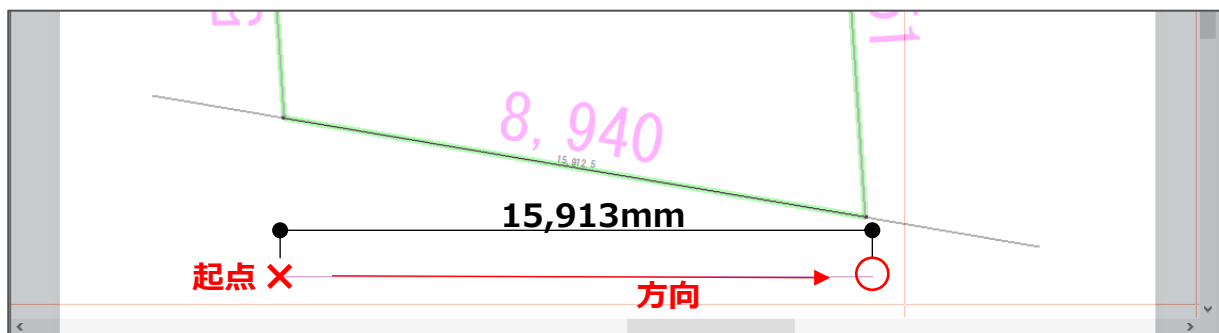
これ以降の操作では、マウススクロールなどでの外構図画面の拡大/縮小は行わないでください。
画面の拡大/縮小を行うと、縮尺があわなくなります。

- ③ (配置補助)の (補助線)から (角度長さ)をクリックし、角度と長さを設定
- * (配置補助)の (補助線)をクリック後、作図モード⇒ (角度長さ)を選択してもかまいません。
 - * 角度は「0」度、長さは「15913」mmとします。
 - * グリッド調整の数字は整数で入力するため、小数点以下の端数は調整してください。ここでは四捨五入します。

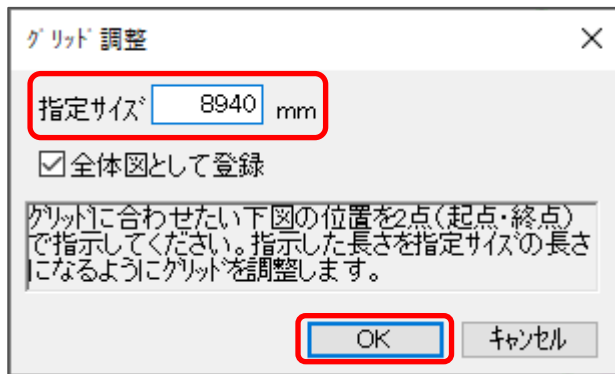


- ④ 設定後「OK」をクリック
- ⑤ 起点一方向で長さと角度を指定した補助線を配置

- * 指定した長さの水平な補助線が入力されます。

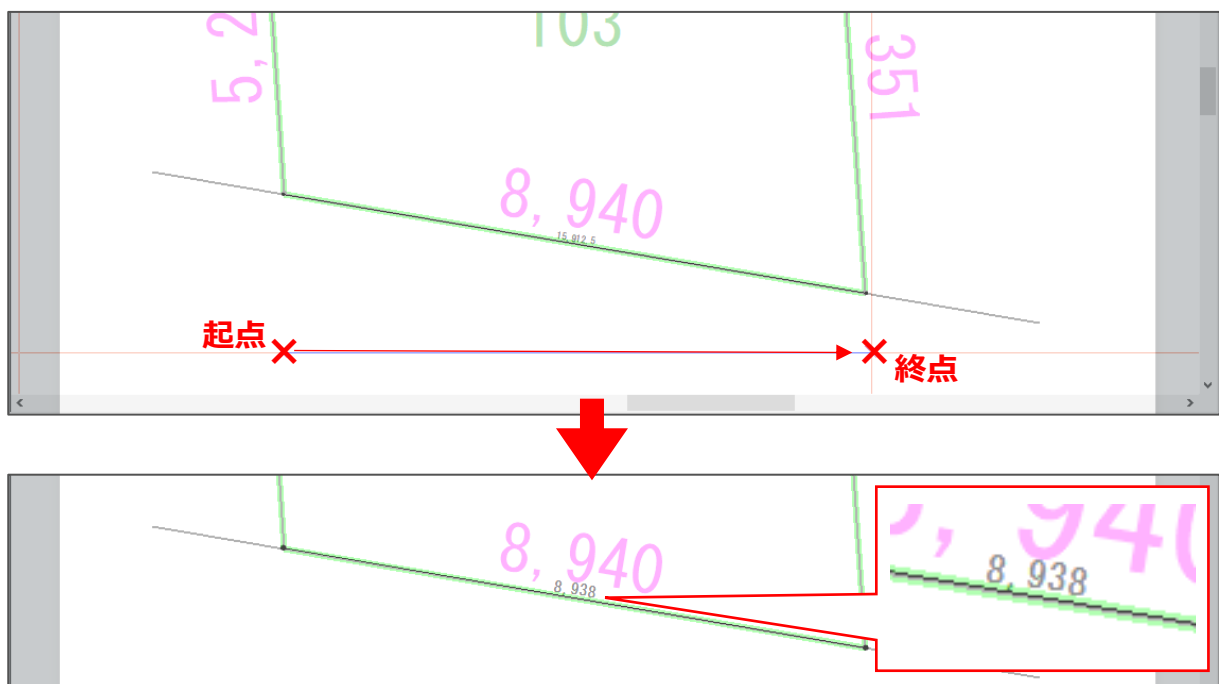


- ⑥ P.3~4 操作⑤~⑥と同様に、グリッド調整で、指定サイズを「8940」mmとし「OK」をクリック



- ⑦ 水平に配置した補助線を、起点—終点でなぞるようにクリック

* グリッドが自動計算され、外構図の入力画面の拡大率がかわります。



* 寸法線で長さを確認すると、「8938mm」となっており、ほぼ縮尺はあっていることを確認できます。